

1. リハビリテーション分野及び予防医療分野における 海外人材育成事業

学校法人 国際医療福祉大学

【現地の状況やニーズなどの背景情報】

両国では、急速な経済発展の一方で、医療水準の向上やユニバーサル・ヘルスカバレッジの達成が喫緊の課題となっている。また、リハビリテーションや予防医療分野での人材育成ニーズも高まっている。

【活動内容】

国際医療福祉大学では、両国の医療系大学や国立病院と交流協定等を締結、またミャンマー保健スポーツ省とは医療人材育成の推進等に係る覚書を締結している。これらの大学・病院等を対象として、リハビリテーション及び予防医療の両分野において、指導者の派遣・研修員の受入を行う。

【期待される成果や波及効果等】

リハビリテーション及び予防医療分野における我が国の最先端の知識や技術の移転により、両国の医療水準の向上及び医療システム全体の発展に寄与する。

<研修実施結果>

専門家派遣（ベトナム）

6月4名、8月2名、10月3名、11月2名

専門家派遣（ミャンマー）

8月4名

- ・セミナー・ワークショップの開催
- ・病院等の現場における実技指導

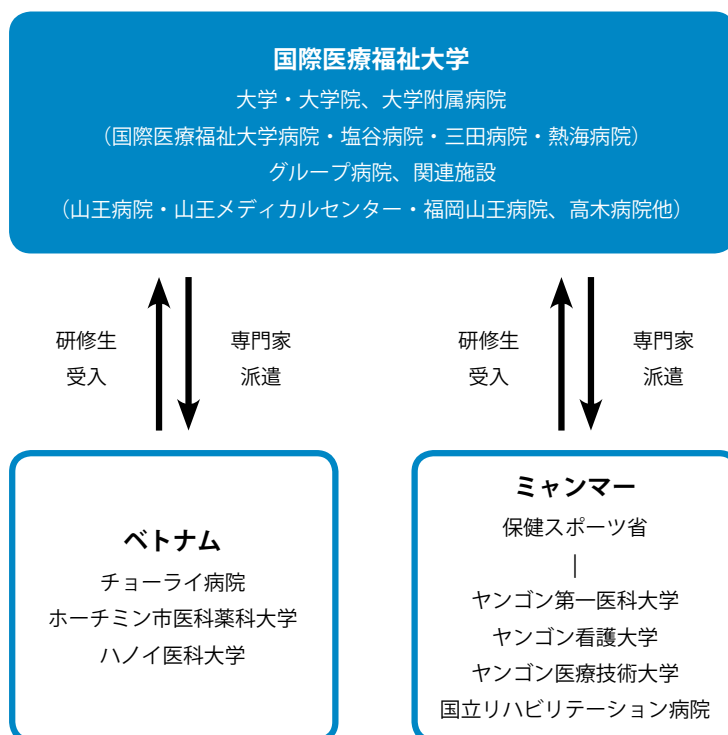
研修生受入（ミャンマー）

10月7名

研修生受入（ベトナム）

10月4名、11月11名

- ・本学大学・大学院における講義
- ・附属病院・グループ関連施設等における実地研修



国際医療福祉大学は、主にベトナムとミャンマーを対象に、リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業を実施しましたので、結果を報告させていただきます。

私ども国際医療福祉大学は1995年に設立され、以降アジア各国の医療水準の向上に寄与してまいりました。特にベトナムとミャンマーにおきましては、両国の医療系大学や国立病院と交流協定等を締結しております。また、ミャンマーの保健スポーツ省とは医療人材育成に関する覚書を締結しております。本学はこれらの大学・病院を対象としたリハビリテーションや予防医療の分野において指導者の派遣、研修員の受入を行ってまいりました。私どもは全国に5つのキャンパスと4つの附属病院、多数のグループ施設を有しており、それらの施設から海外に指導者を派遣し、また逆に研修員を受け入れることが可能です。本年度は、ベトナムのチョーライ病院、ホーチミン市医科薬科大学、ハノイ医科大学、ミャンマーは保健スポーツ省を通じてヤンゴン第一医科大学、看護大学、医療技術大学、国立リハビリテーション病院を対象として、研修員の受入や指導者の派遣を行う計画を策定いたしました。

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

ベトナム：チョーライ病院人間ドックセンター 専門家派遣 ①

- 分野: 予防医療分野
- 派遣者: 教授(放射線分野) 1名 勝俣 健一郎
建築設計技師 1名 佐々木 邦彦
事務職員 2名 加瀬 文彦
内立輪 猛
- 実施期間: 2016年6月20日～6月24日 (5日間)
- 実施場所: ベトナム・国立チョーライ病院
- 主な研修内容(講義・実習):
① 放射線技術分野における指導
② 国立チョーライ病院内に建設中の人間ドックセンターに係る施設・設備面、管理・運営面における指導

国際医療福祉大学

具体的に各活動内容について、時系列で派遣、受入別に紹介させていただきます。まず昨年6月、ベトナム・チョーライ病院の人間ドックセンター設立のために本学の専門家を派遣しました。本プロジェクトは、チョーライ病院の中に本学の指導による人間ドックセンターを設立するもので、事業の大きな柱の1つとなっております。2016年度は計4回派遣を行いましたので、この後でも報告してまいります。6月は、放射線技術分野における指導と人間ドックセンターの施設・設備面、管理・運営面における指導を目的に、5日間の日程で放射線分野の教授と建築設計技師を各1名、事務員を2名派遣しました。

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

6. 期待される成果:
建設中の人間ドックセンターにおけるハード・ソフト両面での詳細な指導が行え、また放射線技術分野において本学が持つ先端技術・知識を教授することができた。センターの設立に向けて高い設備・内容となることが期待される。



建築に係る施設・設備面の指導 チョーライ病院放射線室 管理・運営業務講習

国際医療福祉大学

この時の成果としましては、ハード面(建築・設備)、ソフト面(管理運営)の両面での詳細な指導を行うことができたこと、放射線技術分野において本学の先端技術、知識を教授することができたことが挙げられます。

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

ミャンマー：国立リハビリテーション病院 専門家派遣


- 分野: リハビリテーション分野
- 派遣者: 理学療法士 2名 太田 喜久夫
宮森 隆行
作業療法士 1名 河野 眞
言語聴覚士 1名 城間 将江
- 実施期間: 2016年8月3日～8月8日 (6日間)
- 実施場所: ミャンマー・国立リハビリテーション病院
- 主な研修内容(講義・実習):
① 日本におけるリハビリテーション医学
② 理学療法・作業療法・言語聴覚各分野における職種別講義・実習
・理学療法分野: 「頸部・肩関節の徒手療法」「下肢のスポーツ理学療法」
・作業療法分野: 「子どもの発達評価」「脳性麻痺および発達障害の作業療法」
・言語聴覚分野: 「高次認知機能障害の評価と管理」「日本の言語聴覚療法および言語聴覚士教育」

国際医療福祉大学

続いて昨年8月、ミャンマーに本学の理学療法士を2名、作業療法士と言語聴覚士を各1名派遣し、現地の医師と理学療法士約50名を対象としたリハビリテーションセミナーを開催しました。ミャンマーの国立リハビリテーション病院内には、同病院の協力のもと本学の研修センターであるリハビリテーションセンターを設立しており、その場を活用しての開催となりました。研修は、分野ごとにスライドに示している講義・実習を中心に行いました。

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

6. 期待される成果:
受講者からは「知識や技術のブラッシュアップにつながるトピックから、最新の神経科学やリハビリテーション医学の知見に至るまで非常に包括的な内容であり、大変良い刺激になった」とのコメントをいただいた。今回の研修内容を日々の業務に活かすことが期待される。



理学療法の実技指導 言語聴覚の講義 研修参加者との集合写真

国際医療福祉大学

成果としまして、ミャンマーでは理学療法士が作業療法士と言語聴覚士の役割も兼ねていますので、特に作業療法士、言語聴覚士の分野において、各職種の役割の認識を広めることができたのではないかと考えております。

ベトナム：人間ドックセンター 専門家派遣 ①

1. 分野： 予防医療分野
2. 派遣者： 臨床検査技師 1名 阿部 仁美
事務職員 1名 加瀬 文彦
3. 実施期間： 2016年8月26日～9月1日 (7日間)
4. 実施場所： ベトナム・国立ハノイ医科大学、国立チョーライ病院
5. 主な研修内容(講義・見学・協議)：
 - ① 臨床検査学分野における指導、研修プログラムに関する協議
 - ② 国立チョーライ病院内に建設中の人間ドックセンターに係る管理・運営面における指導
 - ③ 国立ハノイ医科大学および大学病院の視察、同大学学長との協議



6月に引き続き、8月下旬にベトナム・チョーライ病院の人間ドックセンターに専門家を派遣しました。この時は臨床検査技師と事務職各1名が現地に赴きました。

6. 期待される成果：
臨床検査および放射線検査の各分野において指導を行い、今後それぞれの分野において継続的に質の高いサービスを提供していくことが期待される。また、各分野において現状の技術レベルについての調査を実施、今後の研修プログラム運営および人間ドック建設プロジェクト進行に必要な多くの情報を収集することができた。



日本型人間ドックに関する講義 チョーライ病院での視診の様子 病院スタッフと



これらの活動を通じて、今後の研修プログラム運営と人間ドック建設プロジェクトの進行に必要な多くの情報を収集することができたと考えております。

6. 期待される成果：
臨床検査分野における先端的技術・知識に関する指導、および現地における研修プログラムについて協議を行ったことで、継続的に質の高いサービスを提供されることが期待される。管理・運営面についても6月に引き続き指導を行い、本学と同病院のより一層の関係深化の一助となった。



人間ドックセンター建設現場の視察 チョーライ病院臨床検査室 研修プログラムに関する協議



チョーライ病院での臨床検査分野における指導と合わせて、ベトナム北部の主要都市に位置するハノイ医科大学におけるアプローチを開始できたことが、この回の成果になったと思います。

ベトナム：チョーライ病院人間ドックセンター 専門家派遣 ②

1. 分野： 予防医療分野
2. 派遣者： 臨床検査技師 1名 阿部 仁美
診療放射線技師 1名 熊澤 ゆみか
事務職員 1名 加瀬 文彦
3. 実施期間： 2016年10月2日～10月6日 (5日間)
4. 実施場所： ベトナム・国立チョーライ病院
5. 主な研修内容(講義・調査・見学)：
 - ① 臨床検査分野での指導、および検診に関する各検査技術等に係る調査
 - ② 放射線検査分野での指導、および放射線機器の操作技術等に係る調査
 - ③ 国立チョーライ病院内に建設中の人間ドックセンターに係る管理・運営面における指導



10月にも再度チョーライ病院への専門家派遣を行いました。臨床検査技師、診療放射線技師、事務職員各1名ずつの派遣となっております。臨床検査分野と放射線検査分野での指導および実習、各検査技術等の調査や、放射線機器の操作技術の調査を行いました。

ベトナム：人間ドックセンター 専門家派遣 ②

1. 分野： 予防医療分野
2. 派遣者： 教授(放射線分野) 1名 勝俣 健一郎
事務職員 1名 加瀬 文彦
3. 実施期間： 2016年11月22日～11月25日 (4日間)
4. 実施場所： ベトナム保健省、国立ハノイ医科大学、ハノイ市内病院(ビンメック国際病院・108軍中央病院)
5. 主な研修内容(講義・見学・協議)：
 - ① 国立チョーライ病院内に建設中の人間ドックセンターに係る施設・設備面での協議
 - ② 国立ハノイ医科大学における人材育成プログラム作成を目的とした協議、現地医療状況把握のための協議および視察



6. 期待される成果：
建設中の人間ドックセンターについて、ベトナム保健省と医療機材の設置や人材育成等多岐にわたる協議を行い、良好なコミュニケーションを構築できたことは、同プロジェクトを進行させる上で大きなアドバンテージになったと考えられる。また、ハノイ医科大学における人材育成プログラム作成を目的とした協議、視察を行い、今後ホーチミンに続く人間ドックセンターの設立に向けた検討が進むことが期待される。




11月下旬にもベトナムに専門家を派遣し、この時はホーチミンだけでなく、ハノイでも活動を行いました。8月にアプローチを開始しましたが、一歩踏み込んだ形で協議を行ったほか、ハノイ市内にあるビンメック国際病院や108軍中央病院を視察し、ハノイでのより具体的な活動を開始いたしました。

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

**ベトナム：リハビリテーション・予防医療分野研修受入
国立チョーライ病院、ハノイ医科大学**

- 分野： リハビリテーション・予防医療分野
- 研修員： Dr. Nguyen Duc Hinh 国立ハノイ医科大学 学長
Dr. Ha Phan Hai An 国立ハノイ医科大学 国際協力部長
Prof. Tran Quyet Tien 国立チョーライ病院 副病院長
Dr. Huynh Kim Phuong 国立チョーライ病院 健診部長・国際部長
- 実施期間： 2016年10月23日～10月25日（3日間） ハノイ医科大学
2016年10月23日～10月26日（4日間） チョーライ病院
- 実施場所： 国際医療福祉大学・同大学三田病院・山王病院他
- 主な研修内容(講義・見学・協議)：
 - 日本の医療全般、および予防医療・リハビリテーション教育分野に係る講義とディスカッション
 - 大学附属病院や本学関連施設等が提供する医療施設・サービスの視察
 - ベトナムにおける人間ドックセンター設立に関しての協議(チョーライ病院)

 国際医療福祉大学


一方、研修生の受入ですが、10月下旬にベトナムのリハビリテーション・予防医療分野受入事業として、国立チョーライ病院、ハノイ医科大学から計4名を招いて研修を行いました。

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

- 期待される成果：

日本における医療教育および医療システムについての講義、さらに他国の医療機関・教育機関の代表者らと意見交換を行うことで、日本と母国との類似点、相違点を認識させ、視野を広げさせることに繋がった。

また、26日のチョーライ病院との協議においては、本学附属病院等に勤務する専門職より技術や情報を提供し、同病院内に設立計画中の日本型人間ドックセンターをより良い内容にするための協議を行った。帰国後はこれらの情報を計画策定に反映することが期待される。


 国際医療福祉大学

具体的な活動ですが、予防医療やリハビリテーション、日本の医療全般における講義とディスカッション、そして大学や病院等の視察が主な内容となりました。アジア数カ国の大学学長レベル、病院院長レベルの方々と交えてディスカッションを行ったことで、日本とそれぞれの国の類似点、相違点を認識し、視野を広げていただくことができたのではないかと考えております。

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

**ミャンマー：リハビリテーション・予防医療分野研修受入
国立ヤンゴン第一医科大学、国立ヤンゴン看護大学、
ミャンマー教育省、国立リハビリテーション病院**

- 分野： リハビリテーション・予防医療分野
- 研修員： Prof. Zaw Wai Soe 国立ヤンゴン第一医科大学 学長
Prof. Zaw Lynn Aung 国立ヤンゴン第一医科大学 内科学主任教授
Dr. Tun Nay Oo 国立ヤンゴン看護大学 生理学主任教授
Dr. Mie Mie Aye 国立ヤンゴン看護大学 英語学主任教授
Dr. Aung Naing Soe ミャンマー教育省 高等教育副局長
Mr. Myint Aung ミャンマー教育省 高等教育課長
Dr. Nwe Nwe Thein 国立リハビリテーション病院 病院長
- 実施期間： 2016年10月23日～10月26日（4日間）
- 実施場所： 国際医療福祉大学・国際医療福祉大学病院・同大学三田病院・山王病院他

 国際医療福祉大学

また、同時期にはミャンマーのヤンゴン第一医科大学、

ヤンゴン看護大学、ミャンマー教育省、国立リハビリテーション病院から計7名を受け入れました。

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

- 主な研修内容(講義・見学・協議)：
 - 日本の医療全般、および予防医療・リハビリテーション教育分野に係る講義とディスカッション
 - 大学附属病院や本学関連施設等が提供する医療施設・サービスの視察
- 期待される成果：

PT・OT・STそれぞれの役割を明確に理解させるとともに、日本におけるそれぞれの職種に関する教育システムについても認識を深めさせることができた。さらに他国機関の代表者らと意見交換を行うことで、医療教育・システムについて視野を広げることができた。帰国後は各大学、機関において、これらの知識・技術の普及を図ることが期待される。



講義の様子



大田原キャンパスの視察

 国際医療福祉大学

ベトナムの受入事業と同じように、視察や他国のスタッフを交えてのディスカッションを行いました。

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

ベトナム：チョーライ病院 研修員受入

- 分野： 予防医療・先進的医療分野
- 研修員：

<看護師：4名> Ms. Le Thi Tra My Ms. Nguyen Thi Kim Uyen Ms. Phan Thi Van Phuong Ms. Phan Thi My Hanh	<医師：2名> Dr. Doan Thi Minh Hong Dr. Lu Lam Ngan
<検査技師：3名> Mr. Nguyen Minh Dung Ms. Pham Thi Thuy An Mr. La Pham Dang Luan	<放射線技師：2名> Ms. Tran Huynh Mr. Nguyen Thanh Liem
- 実施期間：


看護師	2016年11月21日～12月10日（20日間）
医師	2016年11月28日～12月3日（6日間）
検査技師	2016年11月28日～12月10日（13日間）
放射線技師	2016年11月28日～12月17日（20日間）

 国際医療福祉大学

リハビリテーション分野及び予防医療分野における海外人材育成事業(ベトナム・ミャンマー)

- 実施場所： 国際医療福祉大学・同大学三田病院・山王メディカルセンター他
- 主な研修内容(講義・見学・協議)：
 - 日本式人間ドックの概要理解、および職種別に以下項目の技術・業務の修得
 - <看護師> 人間ドック当日の患者誘導・生理検査・レポート確認等の業務
 - <医師> エコー検査手技、レポート作成等の業務
 - <検査技師> センターに導入予定機器と同一の検査機器を用いた検査手技
 - <放射線技師> CT・MRI・マンモグラフィ等の手技、胃透視検査技術
 - 大学附属病院等が提供する医療施設・サービスの視察
- 期待される成果：

見学や実務研修により日本式の人間ドックの概要を理解することができ、チョーライ病院における人間ドックセンター開設後にそれぞれの職種が担う役割をイメージさせることができた。また本学キャンパス、附属病院および提携施設の視察、実務担当者による講義を受講することで日本の医療教育について触れることができ、技術やサービスに関してのスキルアップへの意欲を高めることができた。

 国際医療福祉大学



講義(組織診断・細胞診)



病院接遇研修終了後、講師とともに



大田原キャンパス視察



感染対策講習




国際医療福祉大学病院視察



研修修了式

 国際医療福祉大学

そして、昨年11月から12月にかけて、ベトナム・チョーライ病院より計11名の研修生を招き、本学の三田病院や山王メディカルセンターにおいて実践的な研修・指導を行いました。人間ドックセンターの技師に対しては、実際にセンターを開設した後の具体的な業務に関する実習と指導、看護師には患者誘導やレポートの確認、医師にはエコー検査やレポート作成等の内容となりました。成果としまして、現地で勤務予定のスタッフに対し、開設後に実際にどのような仕事をどのように行うかという認識付けができたと考えております。実務以外の面では、例えば病院における接遇研修や院内感染対策講習といった衛生・サービス面の指導も行うことができました。

ベトナム・ミャンマーにおけるリハビリテーション及び先進的医療分野に係る人材育成事業
今後の事業展開: 以下の事業等の実施に向けて調整
<p>【ベトナム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● チョーライ病院(ホーチミン市)と共同で建設中の日本人間ドックセンタープロジェクトの継続進行(2017年度中の開設を予定)
<p>【ミャンマー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 国際医療福祉大学からJICAシニアボランティアとして派遣した教員と連携、2016年度に開設し研修用リハビリテーション機材の供与を行ったIUHW研修センターを活用しての、リハビリテーション分野における研修会の継続的、定期的な開催
今後の事業展開: 検討事項
<ul style="list-style-type: none"> ● 2017年4月の医学部開設に伴う、リハビリテーション・予防医学分野以外における国際医療協力実施の可能性 ● 遠隔画像診断センターや医療機器研修センターを併設し、成田市に建設を予定している大学附属病院において研修員を受け入れ、本病院を医療人材育成に係る国際協力のハブ施設とする計画の策定


今後としては、ベトナム・チョーライ病院の人間ドックセンタープロジェクトを継続いたしまして、来年度中の開設を予定しております。ミャンマーにおいては、本年度開設したリハビリテーションセンターを活用して、継続的に研修会を開催していきたいと考えております。また、来年度は4月に本学の医学部が開設されますので、リハビリテーション・予防医学分野以外における国際医療協力の実施の可能性についても探っていきたくと思っています。そして2020年には成田市に大学附属病院を開設する予定でありますので、この病院を医療人材育成に係る国際協力のハブ施設とする計画について策定を検討していきたいと考えております。

発表は以上になります。ありがとうございました。